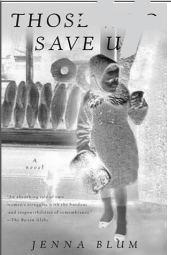


**3** 中級者向   
 高校生程度の英語力で読めるが、物語を通じ筆者が問いかけてくるものは深い。  
 Lois Lowry 作  
 192 頁  
 サイエンスフィクション  
 Houghton Mifflin Company(1993), Bantam Books(1993), Laurel Leaf(2002)等

**The Giver**

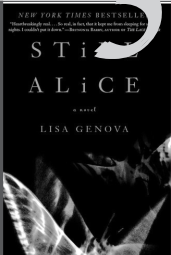
失業も貧困もない近未来の理想郷だが、本当に人類は幸福なのか？理想郷の秘密を握る12歳の少年Jonasが決意したこととは？児童書でありながらSFの傑作としてとらえられている作品。自由であることの意味や価値、本当の幸せとは何かを考えさせられる。アメリカでは小学校高学年から中学向け図書として推奨。読者をストーリーに引き込む洗練された文章の美しさも魅力。1994年ニューベリー賞受賞し500万部以上売上げ。和訳『ザ・ギバー 記憶を伝える者』は講談社から出版。



**4** 上級者向   
 筆者 Jenna Blum は Grub Street で creative writing の講師を勤めるだけあり、美しい文体と読みごたえのある作品。  
 Jenna Blum 作  
 496 頁  
 歴史フィクション  
 Harcourt(2004), Mariner Books(2005)

**Those Who Save Us**

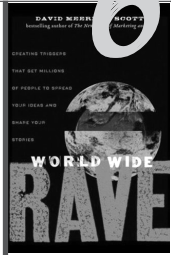
母親はかつてナチス将校の愛人であり、娘は自分の父親がその将校ではないかと疑いを持つ。第二次対戦中ドイツに住む若い女と、50年後ミネアポリス大学で教鞭をとるその娘の物語が交互に展開し、現実が起こったかもしれない迫力あるエピソードが生々しく読者を作品の世界に引き込んでいく。歴史に翻弄された母と、運命に傷付く娘。その悲哀と愛が、誰もが戦争の被害者であったことを物語る。2007年ニューヨークタイムズ紙ベストセラー作品。



**5** 上級者向   
 自費出版から2008年ニューヨークタイムズ紙ベストセラー5位に輝いた話題作。作者はベルモント在住。  
 Lisa Genova 作  
 320 頁  
 医療・健康フィクション  
 Trade Paperback  
 2009年1月6日発売

**Still Alice**

ハーバード大学の心理学教授Aliceは、周囲の尊敬と愛する家族に恵まれ言語学者の夫とケンブリッジでアカデミックな毎日を送っていた。だが50歳を目前に早期発症型アルツハイマーの診断を受ける。戸惑いを隠せない家族、生き甲斐だった仕事の断念、自分を失っていく恐れ…。患者 Alice の視点で描かれた本書を読めば、自分ならどうすると問いかげずにはいられない。作者 Lisa Genova はハーバードで神経科学の博士号を持つ科学者であり二児の母、医療カウンセラー。



**6** ビジネス書  
 「Dummies シリーズ」でおなじみ Wiley 社のビジネス本。筆者は渡辺由佳里さんの御主人。わかりやすく英語の勉強にも。  
 David Meerman Scott 著  
 194 頁  
 ウェブマーケティング  
 John Wiley & Sons Inc  
 2009年3月3日発売

**World Wide Rave**

World Wide Rave というタイトルは、World Wide Wave (インターネットのwww.) と一字違い。静かな水面に小石を投げるように、ひとりが発信したメッセージ、アイディア、プロダクトがネット上で多くの人の Rave (激賞) となって広がってゆくことを表現した筆者の造語である。本書は、WWR を引き起こすための6つのルールとこのルールに従ってマーケティングに成功した企業や個人の事例を紹介する。ビジネスに興味のある人はぜひお試しを。

●特集 洋書を読もう●

にかかったハーバード大学の心理学教授のAliceが主人公の小説です。作者自身がハーバード大学で神経科学の博士号を得た科学者で、綿密な取材に基づく感動的な作品なのですが、最初はどの出版社からも無視されたのです。そこでくじけることなく自費出版したLisaは自ら本をネットでマーケティングし、それが大ヒットしたために大手出版社からペーパーバックで出版することに成功しました。ペーパーバックは出版されるやいなやニューヨークタイムズ紙のベストセラーに入り、日本でも講談社から翻訳版が出版されることに決まりました。

**ふ** だんはemailを交わす程度の交流でも Jenna や Lisa に再会できる場が grub street が年に1度開催する「muse & the marketplace」というイベントです。30人以上の作家が講師として参加し、2日間にわたってプロットの立て方、人物表現の方法、書き直しの方法、などいろいろなテーマでのワークショップが行われます。出版を狙う新人作家には、文芸エージェン트에作品を評価してもらう機会もあります。

去年のワークショップの講師陣は、Newbery medal賞を2度も受賞した児童文学作家のLois Lowry、2004年PEN/Hemingway Award賞受賞作「Mrs. Kimble」の作者Jennifer Haigh、2002年National Book Award受賞作「Three Junos」の作者Julia Glass、Oprahが番組で紹介しミリオンセラーになった「The Pilot's Wife」の作者Anita Shreve という顔ぶれでした。

読書が趣味ではない人には想像しにくいかもしれませんが、野球で言うならばAnita Shreveは必ずホームランを打つDavid Ortiz

のような存在です。読書オタクの私にとってこれほど興奮するイベントはありません。キャンディショップで「好きなものを好きなだけ食べていいよ」といわれた子供のように、どのワークショップに行くべきか迷ってしまいます。参加費が高いように感じるかもしれませんが、それらは施設代や非営利組織の運営費などに費やされ、作家たちにはまったく支払われません。なぜ彼らがせっかくの休日を返上してボランティアをしてくれるかという、彼らがこの地域の「創作文化」と作家コミュニティを愛しているからです。そして、自分たちがどこかで誰かに助けられたように、「ものを書きたい」という情熱を抱く後輩たちを援助するのが自分たちの義務だと思っているのです。

**去** 年の最大のイベントは、Oprahのブッククラブに指名されて有名になったShreveではなく、Oprahのお墨付きを拒否して有名になったJonathan Franzenのキーノート講演でした。

Oprahのブッククラブに選ばれると、それだけでミリオンセラーが確約されますが、出版社や作家がどんなに売り込んでも女王様(Oprah)は自分の気が向いたものしか読まないことで有名です。特にFranzenの場合は評論家の評価が高いにもかかわらずそれほど売れない作家でしたから、「ミリオンセラーのチャンスを蹴るなんてどんな変人なのか？」と多くの人々の注目を集めたわけです。当然Q&Aで皆が知りたいのはそのいきさつです。

実際に会ってみると、Franzenは「変人」というよりも「職人氣質」のシャイで頑固な純文学作家という印象でした。Oprah騒動にしても、Oprahチームと出版社が作家である

Franzenの意向もたずねずに「ありがたいと思え」といわんばかりの態度で「Oprahお墨付き」のピンクのマークを本の表紙に印刷したのが職人としての彼の神経を逆撫でしたのでした。そこで「そんなことしてもらわなくても、けっこう売れているからお断りします」と拒否したというのが真相のようです。

そんな裏話が聞けるのも、こういうイベントの楽しいところなのです。

**今** 年も「muse & the marketplace」の季節がやってきました。

私が応援するJennaとLisaも今年は講師と講演者として参加します。キーノート講演者は2002年にPEN/Faulkner賞を受賞した「Bel Canto」のAnn Patchettです。この作品には日本人も登場するのでご存知の方がいらっしゃるかもしれませんね。

創作好きの方(高校生以上)がいらしたら、多くの作家に直接触れることができるこのイベントをぜひ利用していただきたいと思います。創作のヒントを得るだけでなく、刺激を受けることが夢の実現には大切だからです。Jhumpa LahiriやAmy Tanのように、日系アメリカ人(あるいはアメリカに住む日本人)の葛藤を語る人気作家が誕生してくれたら、こんなに嬉しいことはありません。

**\* grub street** 作家志望者に創作講座、ワークショップ、出版に関する情報などを提供する非営利団体。http://www.grubstreet.org/  
**\* muse & the marketplace** イベント情報を5頁で紹介しています。ご参照ください。  
**\* Oprah** Oprah Winfrey, 女優でありテレビ局、出版社を所有する実業家、資産家。オブラーが司会兼プロデューサーを勤めるトーク番組はアメリカでもっとも高い評価と人気を得ている。